

ヤマトタケルは兵庫県加古川市生まれ 母は播磨稲日大郎姫

日岡陵古墳 (Wikipedia) より

『播磨国風土記』
賀古郡条によれば、印南別嬢が薨じた際に日岡に墓を作ったが、別嬢の遺骸を船に



載せて印南川(加古川)を渡ろうとした時につむじ風に巻き込まれ、遺骸は川中に没した。そして、ただ匣(くしげ:化粧道具箱)と褶(ひれ:首に掛ける布)が見つかるのみであったので、これらを墓に葬って「褶墓(ひれはか)」と名付けた、という。本古墳がその褶墓になると伝承されていたことから、印南別嬢と播磨稲日大郎姫命を同一人物と見て1883年(明治16年)に播磨稲日大郎姫命の陵に治定され、1885年(明治18年)に陵域を定めるとともに修陵され、1895年(明治28年)に陵号が「日岡陵」と定められた。

神戸新聞 2019.6.25

加古川
古来神話の英雄ヤマトタケルの母、稲日大郎女命の墓として伝えられる加古川市加古川町の日岡御陵で24日、慰霊祭が執り行われた。命日に合わせて宮内庁が毎年開く伝統行事で、市民ら約50人が参列した。

日岡御陵で慰霊祭
市民ら50人参列

奈良時代の『播磨風土記』などの記述によると、稲日大郎女命は第12代景行天皇の皇后。同御陵近くの日岡神社で安産祈願をし、日岡山周辺でヤマトタケルを出産したと伝えられる。4世紀ごろに造られた前方後円墳(全長約80m、高さ約8m)に遺品のくし箱と肩掛けが納められているという。

普段は鳥居の約30m手前の参拝所までしか立ち入れないが、この日は鳥居の前まで開放された。儀式では、

同庁職員が鳥居前に神酒や果物、米などを奉納し、参列者が1人ずつ御陵に向かつて一礼した。その後、儀式に使われた神酒が参列者にふるまわれた。



宮内庁職員から神酒を受け取る参列者
加古川市加古川町大野

初めて参列したという明石市の馬場留美さん(50)は「鳥居の目の前まで行ってお参りすることができて、良い経験になりました」と話していた。(小森有喜)

日岡山南麓には式内社の日岡神社が鎮座し、その社伝では播磨稲日大郎姫命の日本武尊(ヤマトタケル)らの出産の際に天伊佐佐比古命(日岡神社祭神)が安産祈願をしたと伝えている。

父は第12代景行天皇。母は皇后の播磨稲日大郎姫(はりまのいなびのおおいらつめ、針間之伊那毘能大郎女/稲日稚郎姫)。

